

第1回琵琶湖・淀川流域市町村長懇談会 結果概要

日 時：平成19年10月4日(木)15:00～17:00

会 場：カラスマプラザ21

出席者：亀井名張市長、今岡伊賀市長、山田守山市長、津村安土町長、南部湖北町長、北村高月町長、岩根木之本町長、二矢余呉町長、熊谷西浅井町長、久保田宇治市長、小田長岡京市長、石井京田辺市長、佐々木南丹市長、河井木津川市長、坂本久御山町長、堀和束町長、木村精華町長、手仲南山城村長、川島長浜市長(代理)、富士谷近江八幡市長(代理)、國松栗東市長(代理)、中嶋甲賀市長(代理)、山崎野洲市長(代理)、海東高島市長(代理)、馬場寝屋川市長(代理)、藤沢箕面市長(代理)

【治水対策について】

- ・ 今までの河川整備が治水一辺倒だったことは反省すべきだが、逆に、治水がいい加減になってはいけない。
- ・ 環境もちろん大事であるが、首長の立場から考えると治水が重要。
- ・ 堤防を高くせず、洪水時に下流に被害を及ぼさないようなまちづくりをしている。治水は一つの市町村でなく、一連の地域で考えることが重要である。
- ・ 河川整備の継続性を考慮しつつ、さらなる推進を図ってほしい。
- ・ 単なる浸水と堤防が決壊するのでは危険度が違う。
- ・ 河川内の立木が繁茂し、流水の阻害にならないか心配。
- ・ 堤防の点検結果から危険な箇所が明らかになっている。さらなる対策をお願いする。
- ・ 川幅が狭く危険度が高い。堆砂が進んでいるため河床掘削は重要。
- ・ 川の間際まで住宅が張り付き川幅を広げることとはできない。早くダム計画を固めて河川整備計画をつくってほしい。
- ・ 早くダム計画を決定して引き続いて事業を進めていくことが効果的な投資である。
- ・ ダムの整備を決定してから完成するまでに時間がかかりすぎる。
- ・ ダムの整備等で一定の効果は出ているが、平成16年の台風23号では大きな被害があった。
- ・ 内水対策を要望しているが、まだ施設ができていないところがある。
- ・ 住民の生命を守るためにハザードマップ等に積極的に取り組むことが必要。
- ・ 市民に対する情報提供が重要。リアルタイムの情報把握できるシステムの検討をお願い

いする。

- ・ 琵琶湖の水位調整のためには、長期の気象予測の活用が可能となればよい。
- ・ 山の保水能力が落ちている。山を守らなければならないが、人がどんどん都会に出てしまうことが課題である。

【河川環境・利用等について】

- ・ 河川整備計画原案には、河川に流入する水質についてあまり書かれていない。琵琶湖の水質が悪化しており、課題として記載すべき。
- ・ 水資源の涵養に関する記載をもう少し詳しく記載すべき。
- ・ 河川は公共空間として貴重な財産であり、利用できる仕組みを考えて欲しい。
- ・ 手を入れずにそのままにしておくことが必ずしも資源を守ることにはならない。河川も適切な管理が必要。
- ・ 急流で川に近づきにくくなっているため、よどみがあれば利用しやすくなる。
- ・ ダム事業を当面実施しない間、事業用地をどのように管理するのか。地域振興に懸念を抱いている。

【意見聴取の取組みについて】

- ・ 市町村長には住民の安全を守る責任がある。実際に災害が発生した場合、住民との窓口になるのは市町村である。
- ・ 責任のある人が如何にして責任をとるのかを踏まえて議論が行われるべきである。
- ・ このような市町村長が集まって議論する機会を頻繁に設けるべきである。
- ・ 地元の意見を十分に聴いていただくようお願いする。
- ・ 利害が対立する上下流がきっちりと議論し、お互いが理解しあえたことが計画に反映されるような仕組みづくりをお願いしたい。
- ・ 治水整備の促進を支援するような組織整備も必要。
- ・ 流域委員会の議論ばかりが報道されることで、固定観念になる傾向がある。新聞等の見出しの表現には十分な配慮を。

この結果概要は、当日の議論をもとに速報版として事務局でまとめたものです。